

九州地区『災害に強いまちづくりに関する調査』(2024年6月)

報告書

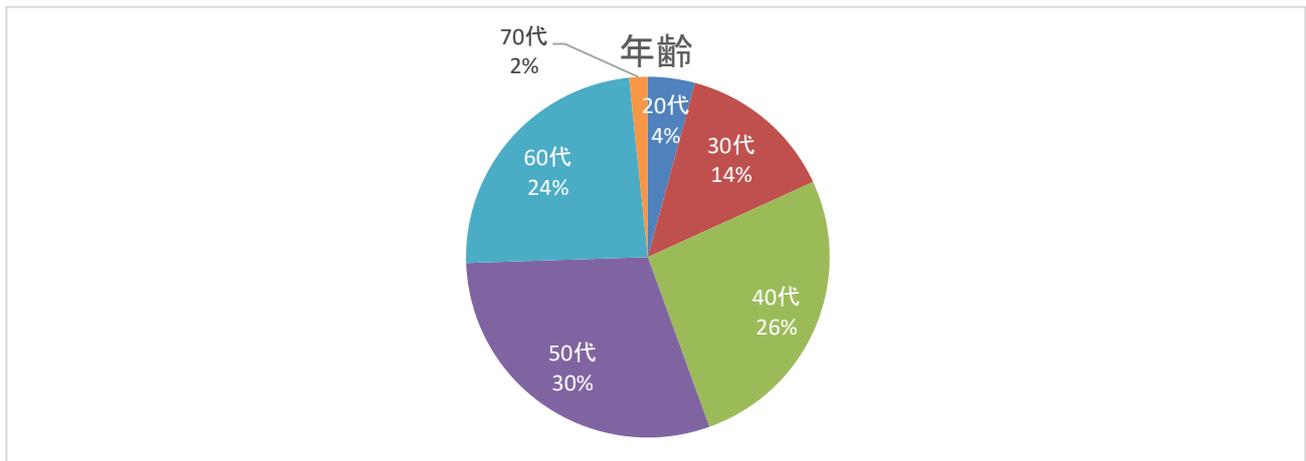
この調査は2024年6月、九州在住の20~70歳の方を対象にオンラインで実施しました。対象の方々は、複数パネルのモニターから目標回収数4,400として、想定回収率にそくして適当数を無作為に抽出しました。配信57,321(有効56,253)、回収4,427票(回収率7.9%)でした。回答にご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

以下、単純集計を中心に、調査報告を申し上げます。

2025年2月28日

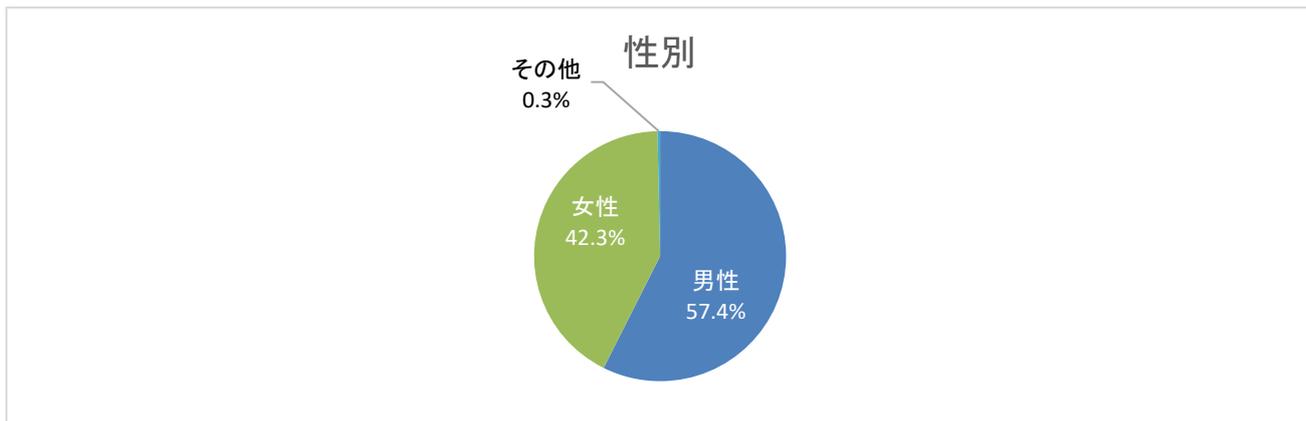
九州大学大学院地球社会統合科学府・博士課程 永田理乃
九州大学大学院比較社会文化研究院・教授 三隅一人

Q1. あなたの年齢をお教えてください。

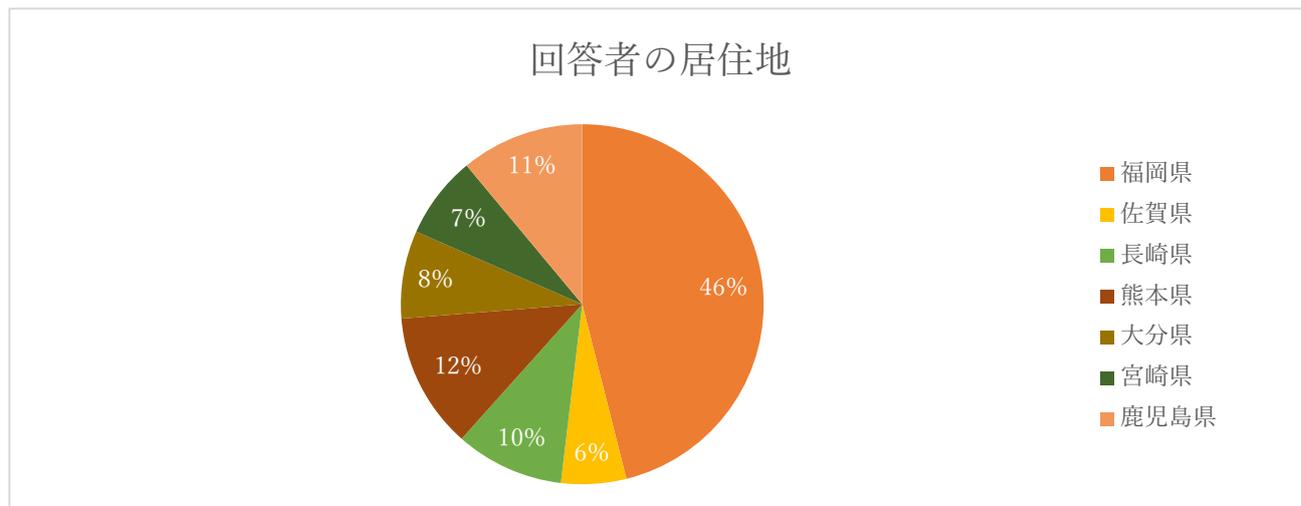


→ 平均値: 50.59

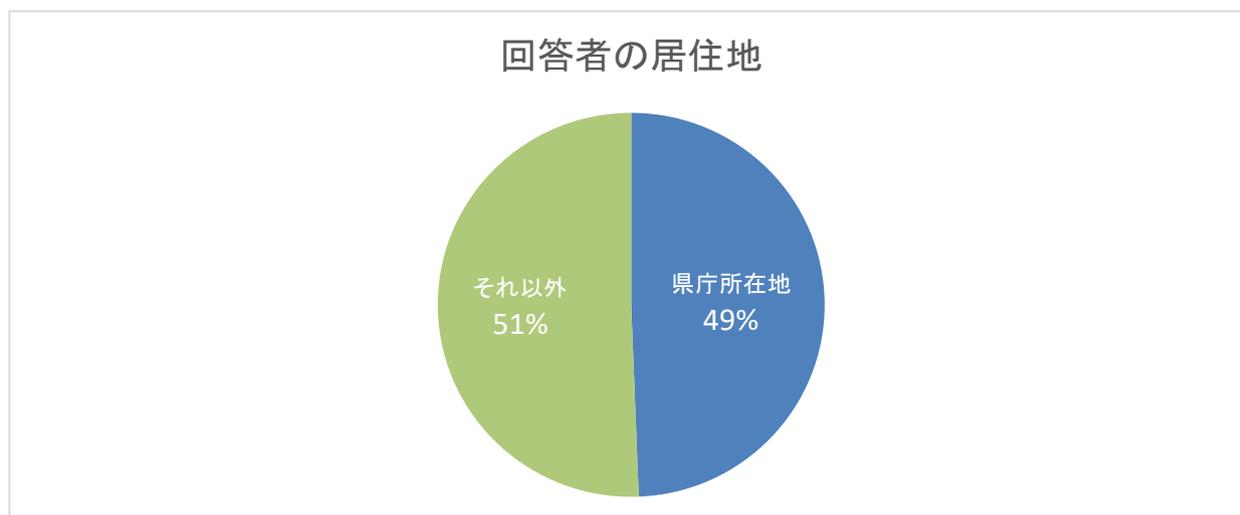
Q2. あなたの性別をお教えてください。



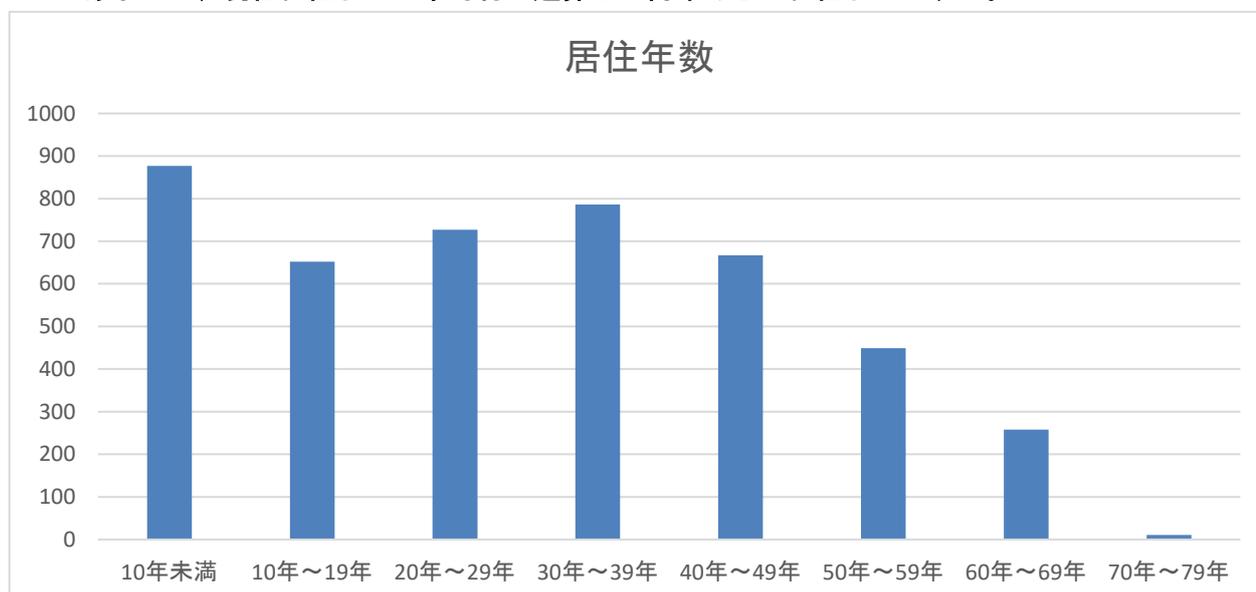
Q3. あなたが現在お住まいの都道府県をお教えてください。



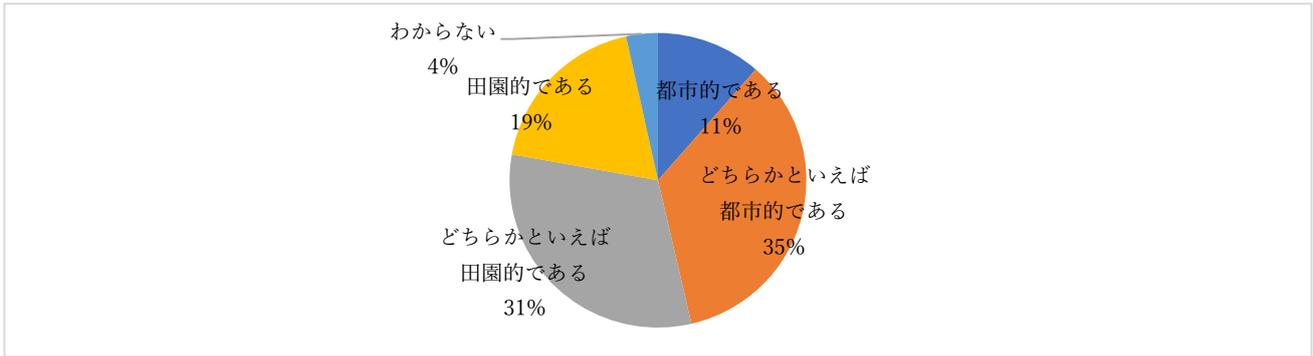
Q4 あなたが現在お住まいの市区町村をお教えてください。



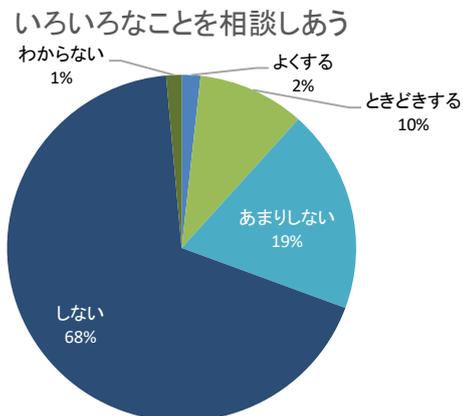
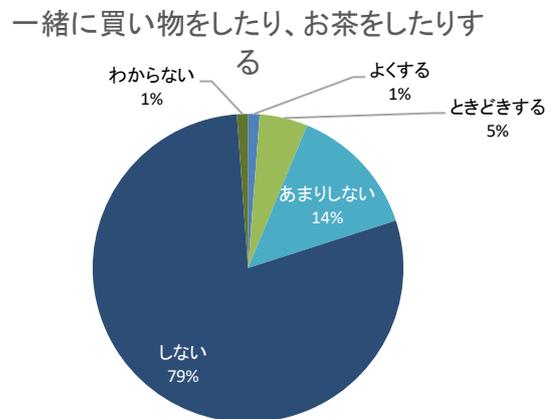
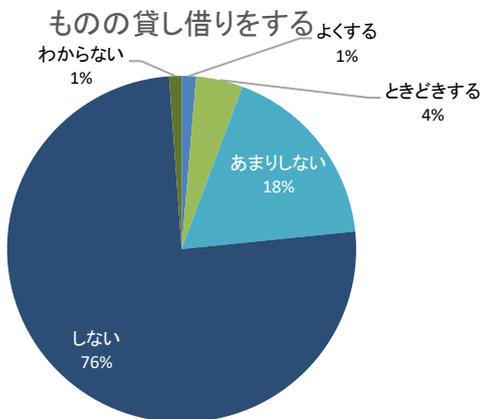
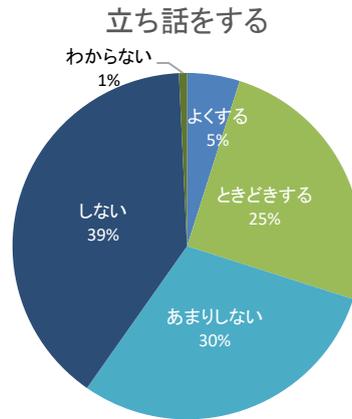
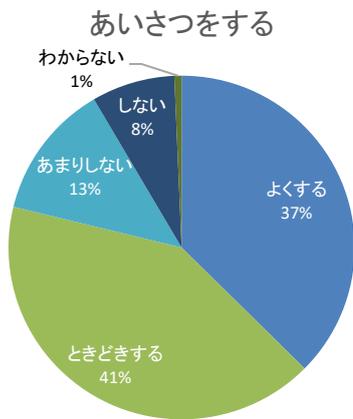
Q5. あなたは、現在お住まいの市町村に通算して何年くらいお住まいですか。



Q6. あなたがお住まいのご近所の環境は、どれに近いとお感じですか。

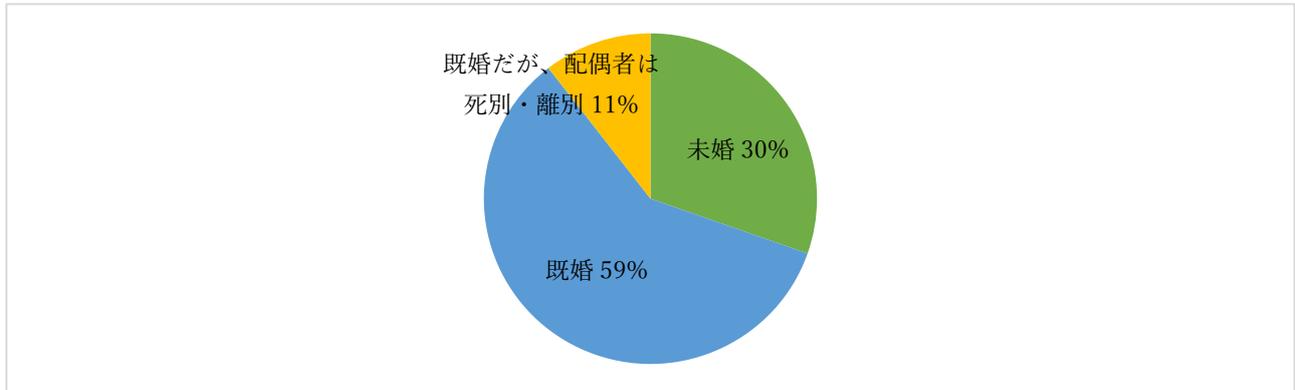


Q7. あなたのお宅では、ご近所の人たちと、以下にあげるおつきあいをどの程度されていますか。

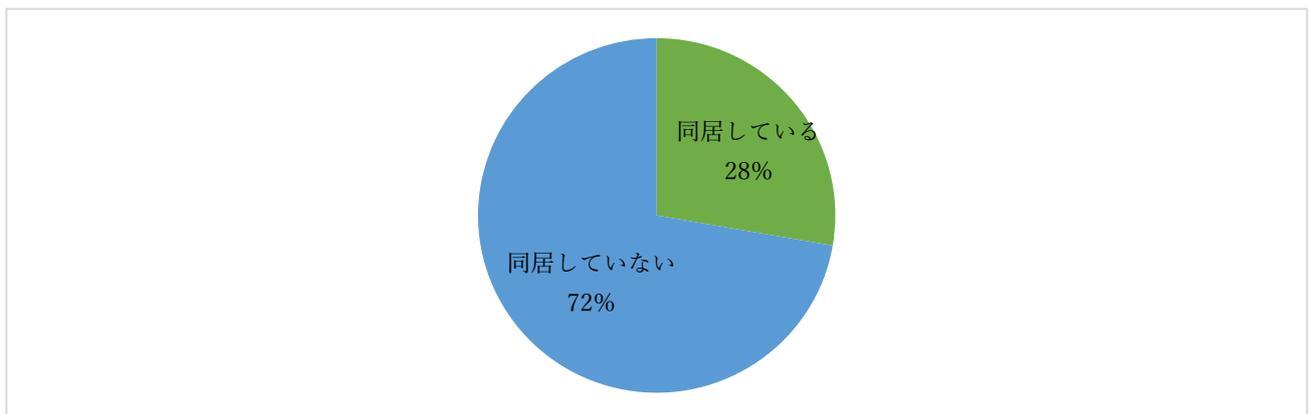


→ あいさつを「よくする」「ときどきする」合計は約 80%と高く、多くの人が日頃からあいさつを行っていることがわかる。一方あいさつに比べると、立ち話を「よくする」人はかなり少なく、また「しない」人も多いことがわかる。ものの貸し借り、一緒に買い物やお茶をするかについては、90%以上の人が「しない」「あまりしない」と回答。それに比べると、いろいろなことを相談しあうかについては、「する」の回答がやや多い。

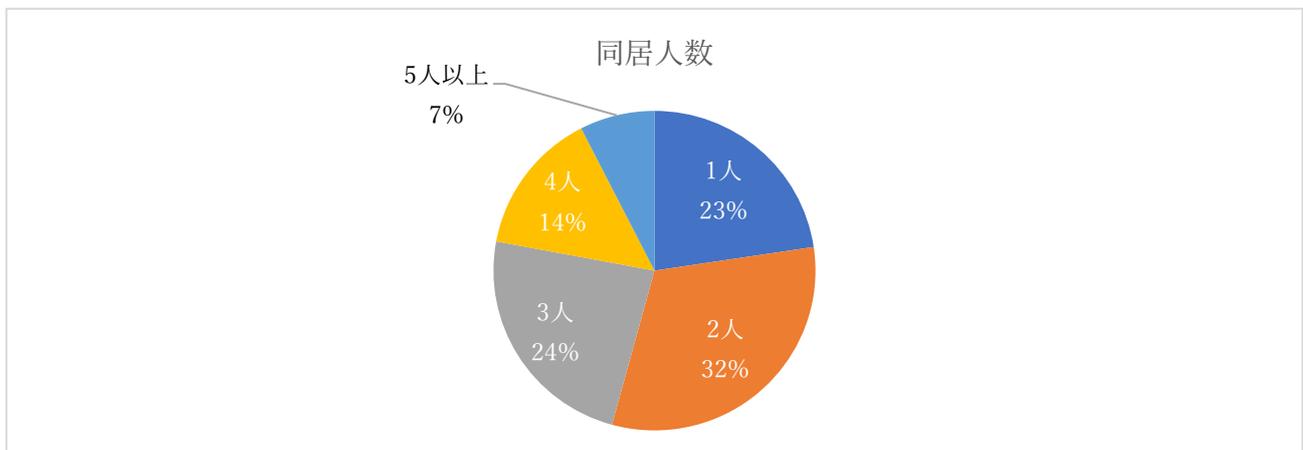
Q8. あなたは結婚されていますか。



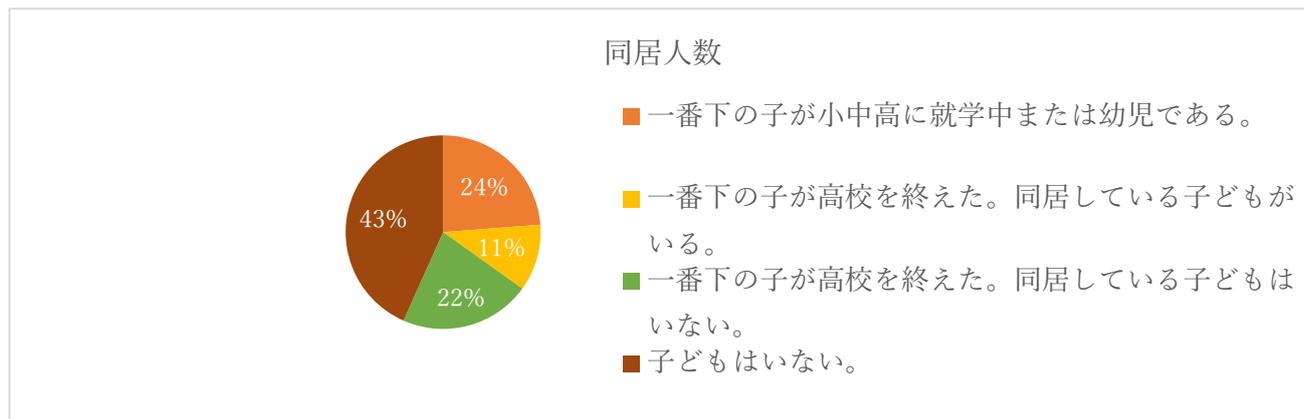
Q9. あなたは親と同居されていますか。



Q10. 同居されている方は、あなたを含めて何人ですか。

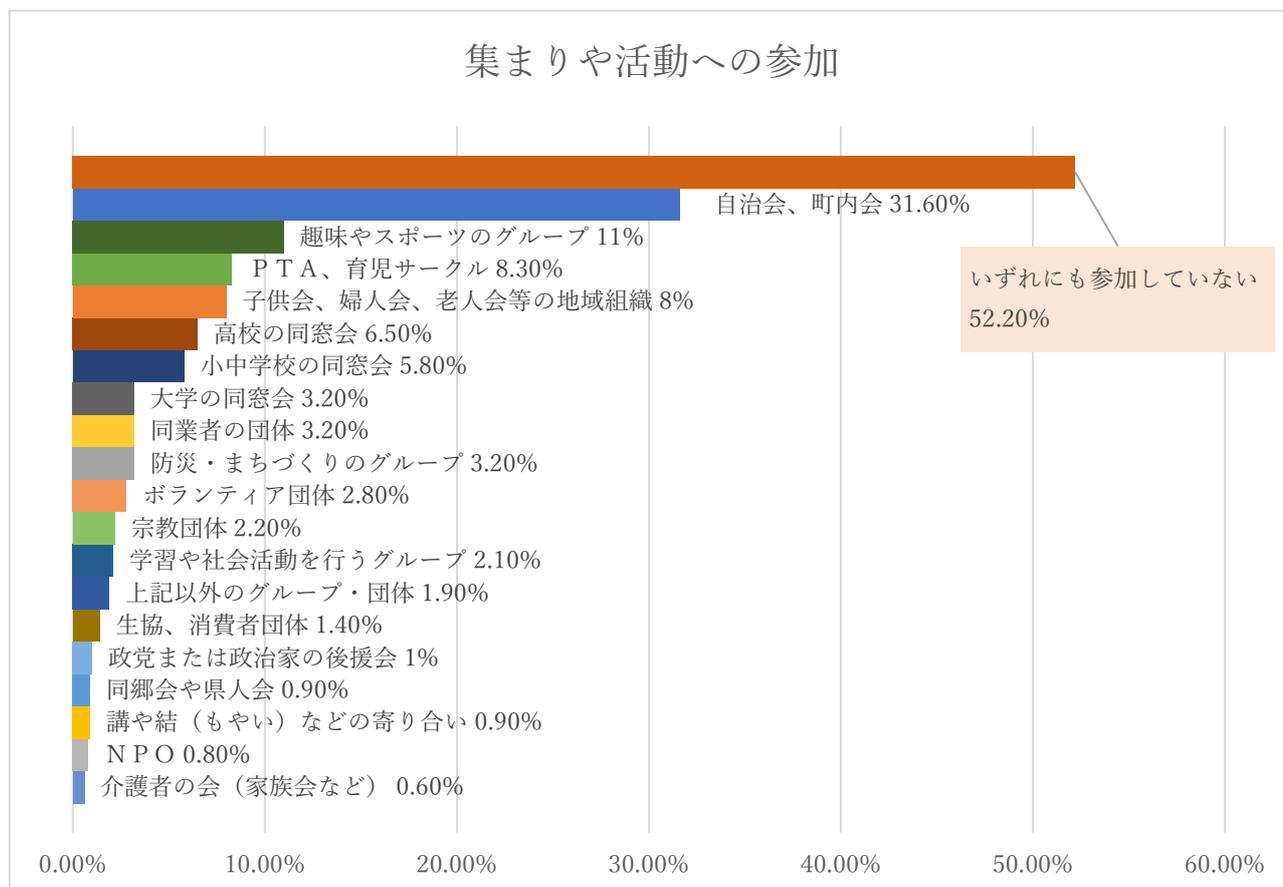


Q11. あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。別居も含めて教えてください。



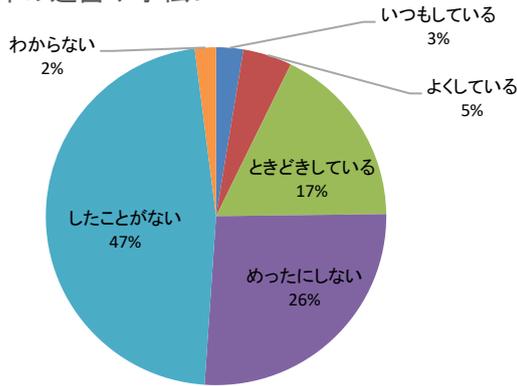
→ 全体の57%が「子どもがいる」と回答。「同居している子どもがいる」と答えたのは全体の35%。「子どもはいない」と答えたのは全体の43%。全体としては、「子どもがいる」の方が、「子どもはいない」よりやや多い。

Q12. 以下にあげる団体やグループについて、ここ数年の間にあなたがその集まりや活動に参加したものがありましたら、いくつでも選択してください。参加したものが無い場合「いずれにも参加していない」を選択してください。

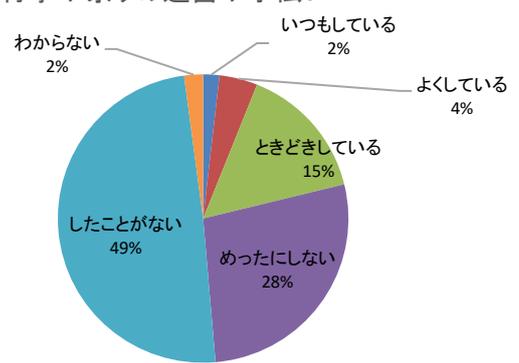


Q13. あなたはふだん、以下にあげる活動をどの程度されていますか。

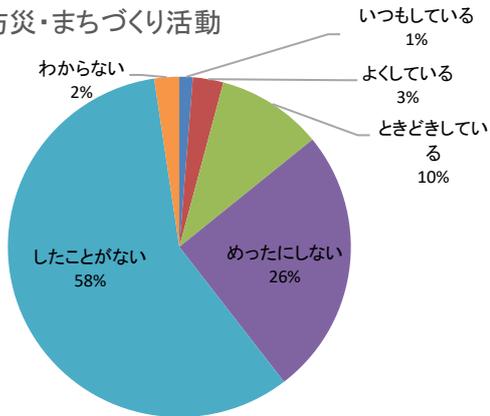
自治体の運営や手伝い



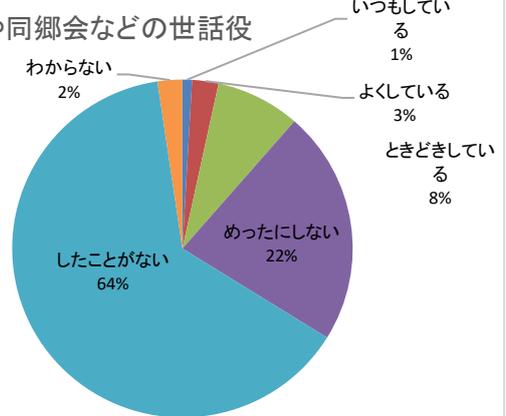
町内の行事や祭りの運営や手伝い



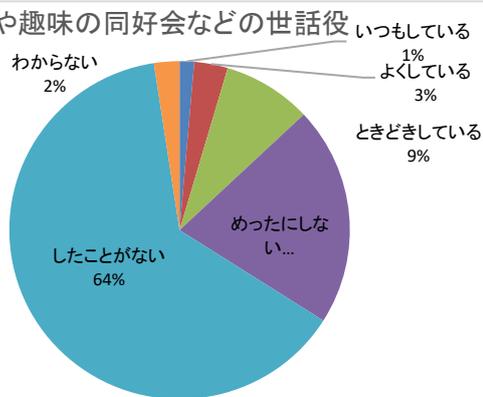
地域の防災・まちづくり活動



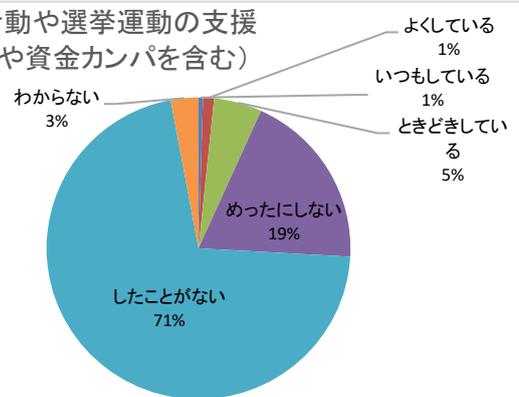
同窓会や同郷会などの世話役



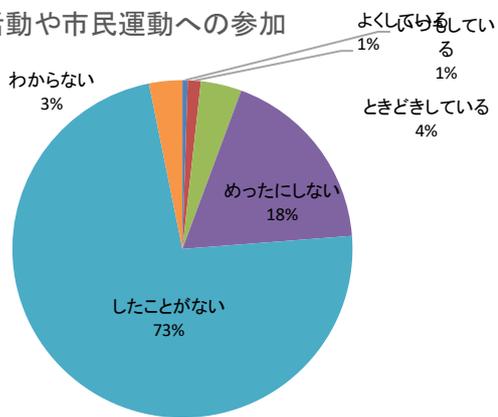
スポーツや趣味の同好会などの世話役



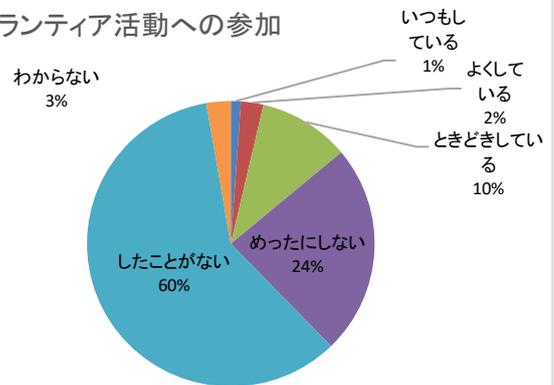
政治活動や選挙運動の支援
(署名や資金カンパを含む)

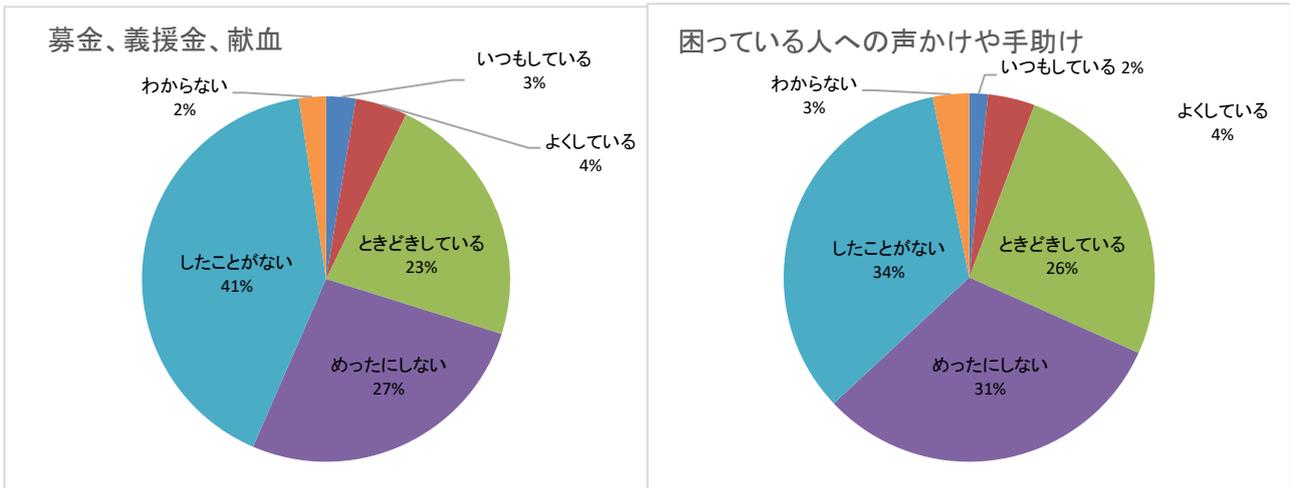


NPO活動や市民運動への参加

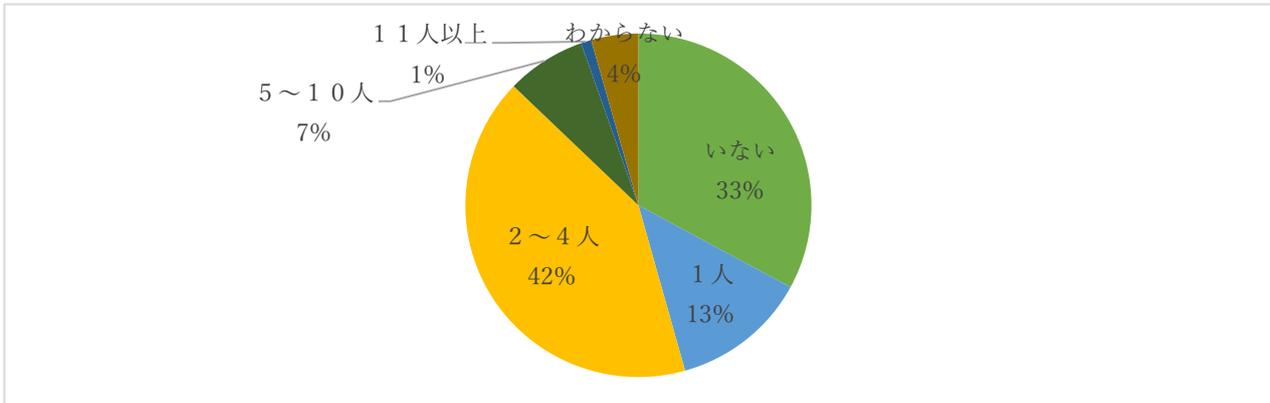


ボランティア活動への参加



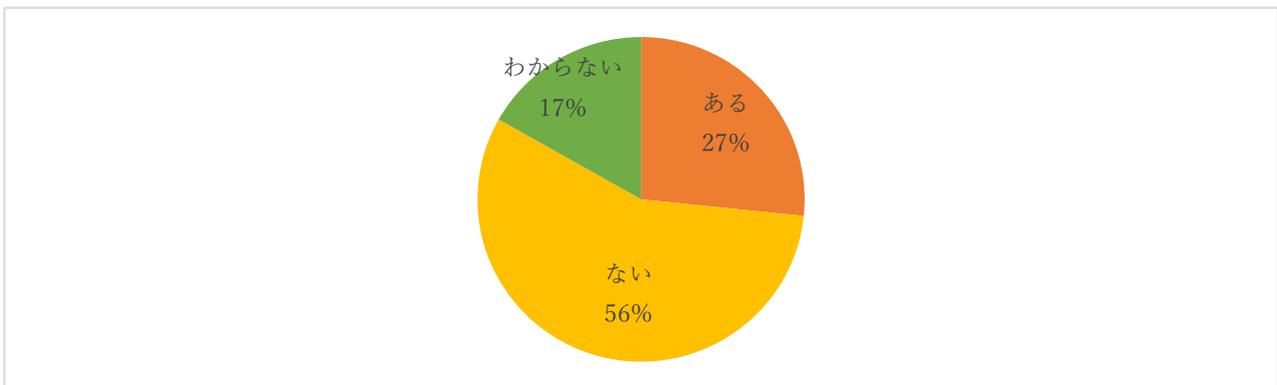


Q14. あなたの友人（家族・親戚を除く）の中で、一緒に余暇を過ごしたり、困りごとを相談したりできるような親しい人は、何人くらいいますか。

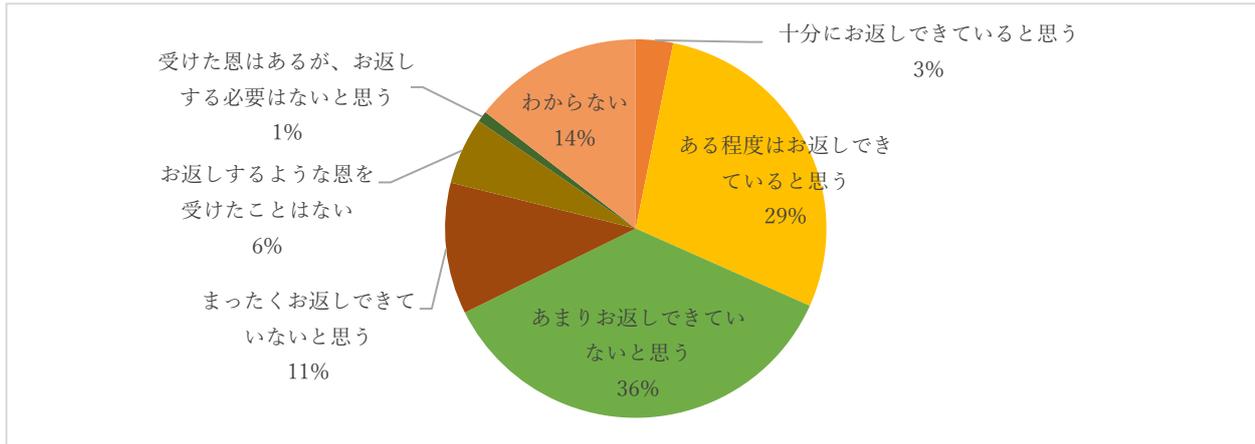


→ 全体の33%が、「一緒に余暇を過ごしたり、困りごとを相談したりできる親しい人はいない」と回答している。

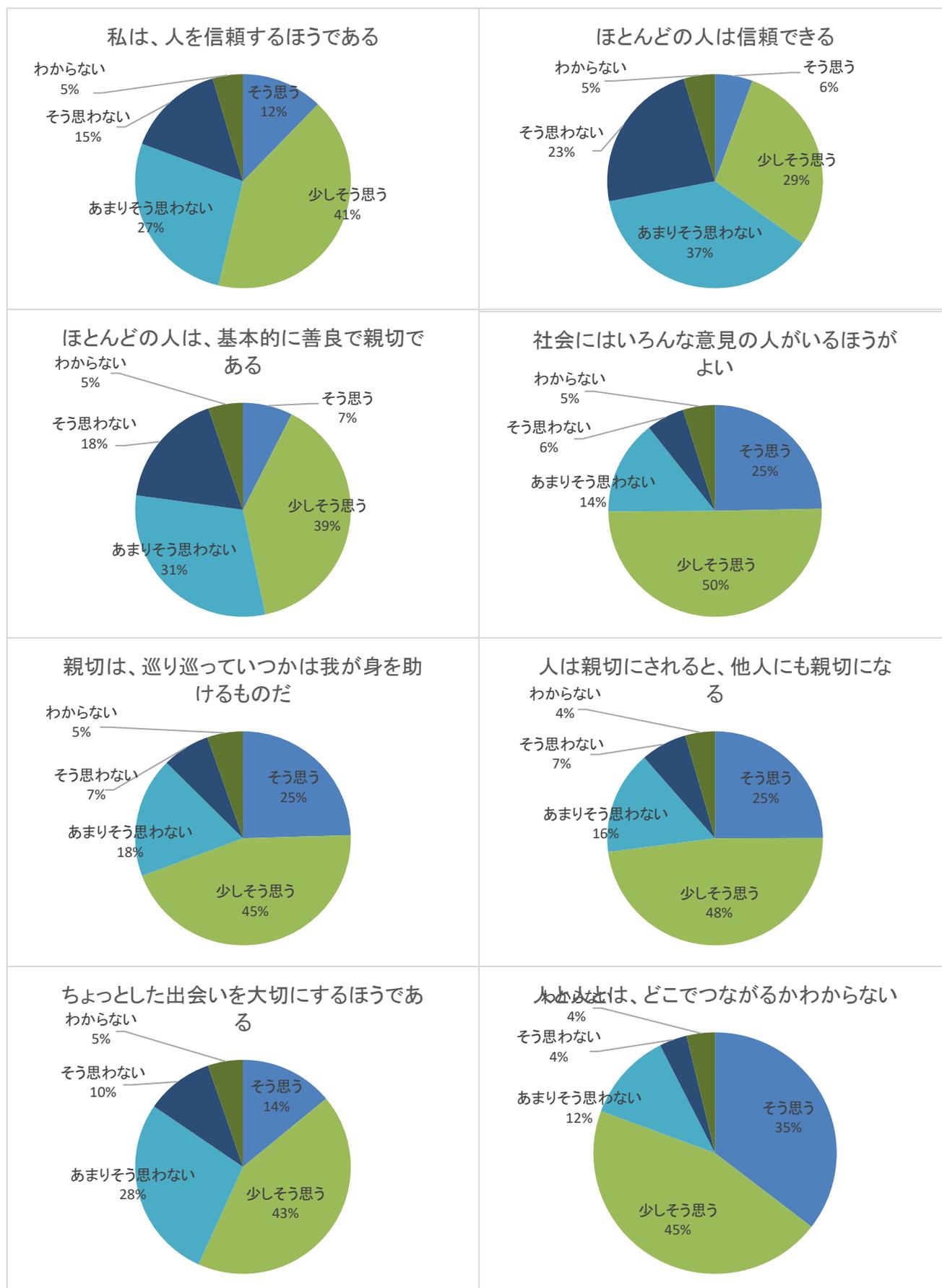
Q15. あなたはこれまでに、ご家族や親類以外の誰かから、自分や家族の仕事・進学・健康・生活設計にかかわる生涯忘れられないような助力を得たことがありますか。



Q16. あなたは、これまでいろんな人から受けた恩にお返しできていると思いますか。



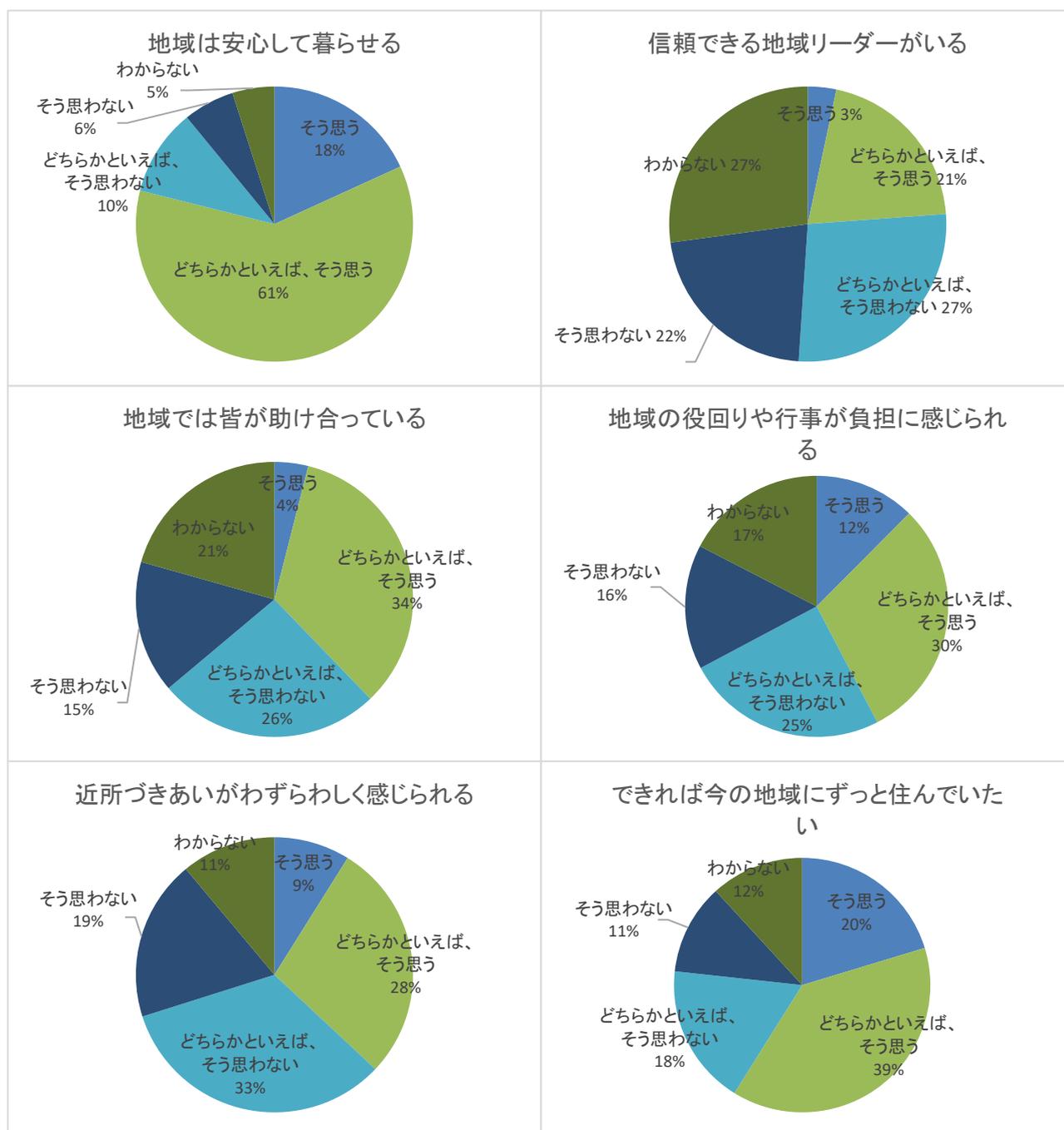
Q17. あなたは、以下にあげることについて、どう思いますか。



→ 「人を信頼するほうである」「ほとんどの人は信頼できる」の回答結果を照合すると、「基本的に他者を信頼する性分であるが、そもそも周囲には信頼できない人がそれなりに多くいる」と考えている人が一定数いることがわかる。

- ➔ さらに、「ほとんどの人は、基本的に善良で親切である」の回答も照合すると、「善良で親切であったとしても、信頼できるかどうかはわからない」と考えている人が一定数いることがわかる。
- ➔ 「社会にはいろんな意見の人がいるほうがよい」に対して「そう思う」「少しそう思う」と答えた人の合計は 75%。回答者の多くが社会における意見の多様性を肯定的にみていることがわかる。
- ➔ 「親切は、巡り巡っていつかは我が身を助けるものだ」に対して「そう思う」「少しそう思う」と答えた人の合計は 70%。回答者の多くが互助性を信じていることがわかる。
- ➔ 「人は親切にされると、他人にも親切になる」に対して「そう思う」「少しそう思う」と答えた人の合計は 73%。親切の輪の波及可能性があると言える。ただ、次項目の「ちょっとした出会いを大切にするほうである」に対して「そう思う」「少しそう思う」と答えたのは全体の 57%。つまり、互助性や親切の輪の波及可能性への認識がある一方で、一瞬の出会いにはそれほど気を注いでいない（もしくはそれが難しいと感じる）人が一定数いることがわかる。
- ➔ 「人と人とは、どこでつながるか分からない」にたいして「そう思う」「少しそう思う」と答えたのは全体の 80%。回答者の多くが、人間関係の網の目は網羅的に広がっていることを認識している。

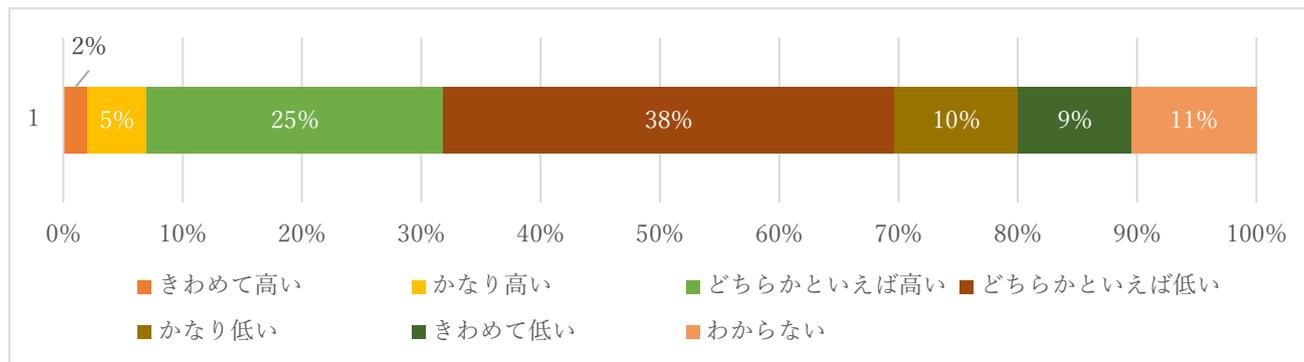
Q18. あなたがお住まいの地域について、以下にあげることをどう思われますか。



- ➔ 「地域は安心して暮らせる」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人は全体の79%。回答者の多くが、地域は安心して暮らせる場所だと認識していることがわかる。
- ➔ 「信頼できる地域リーダーがいる」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えたのは全体の24%。さらに「地域では皆が助け合っている」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人は全体の38%。つまり、「地域リーダーのことは信頼できていないが、地域住民はそれぞれ助け合いながら生活している」と感じている人が一定数いることがわかる。
- ➔ 「地域の役回りや行事が負担に感じられる」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人は全体の42%。「近所づきあいがわずらわしく感じられる」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人は全体の37%。つまり、地域行事等の役回りに比べると、近所づきあいのわずらわしさを感じる人は若干少ない。
- ➔ さらに、「できれば今の地域にずっと住んでいたい」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人の合計は全体で59%。つまり、地域行事における役回りや近所づきあいを負担に

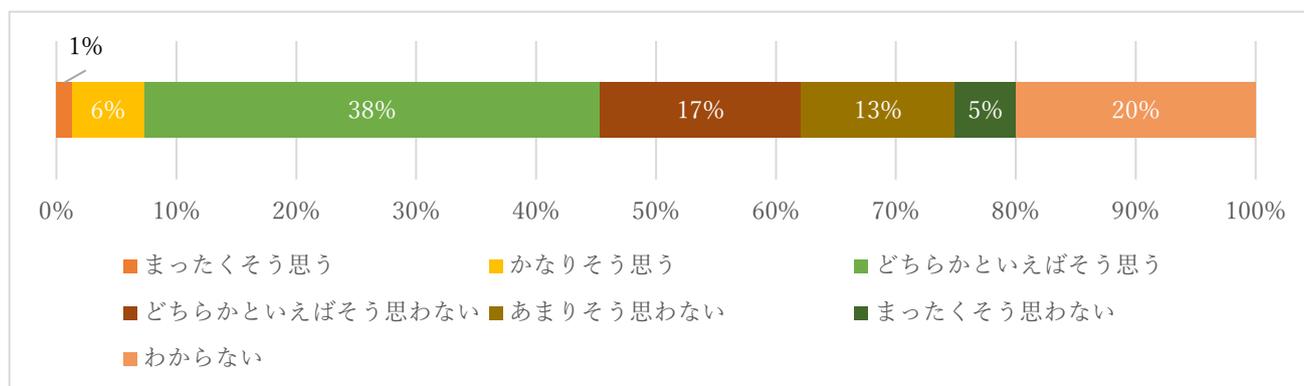
感じてはいるものの、やはり今の地域にずっと住みたいとか感じている人が一定数いることがわかる。

Q19. お住まいの地域の自然災害の危険度は総じて高いと思いますか。

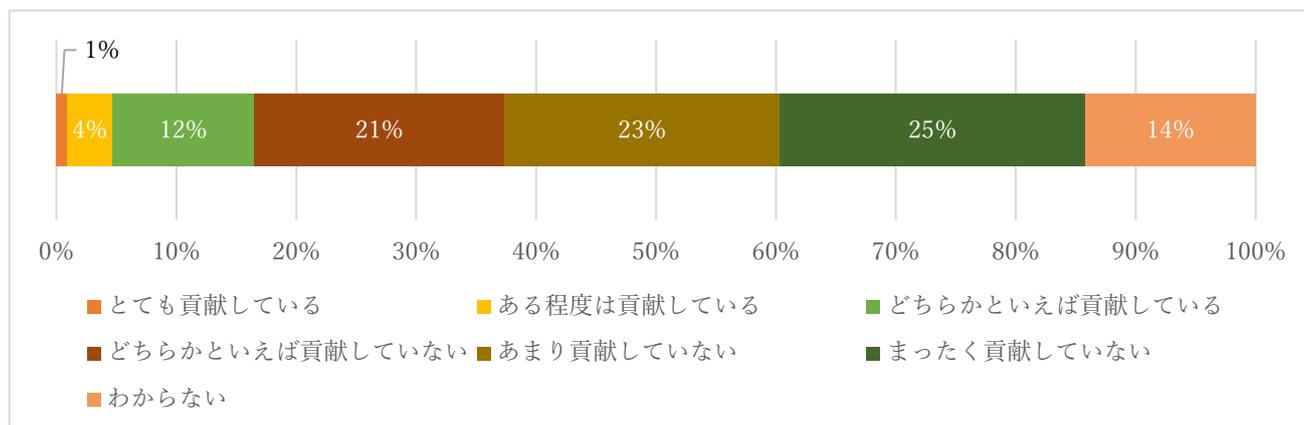


→ 住んでいる地域の災害危険度について、「きわめて高い」「かなり高い」「どちらかといえば高い」と回答した人の合計は32%。「かなり低い」「きわめて低い」「どちらかといえば低い」と回答した人は全体の58%。程度の差はあるけれども、自然災害に対する危機感は全回答者の半数以上がそれほど抱いていないことがわかる。

Q20. 地域の人たちの日頃からの防災・減災の取り組みや、助け合いの心によって、あなたの暮らしは守られていると思いますか。

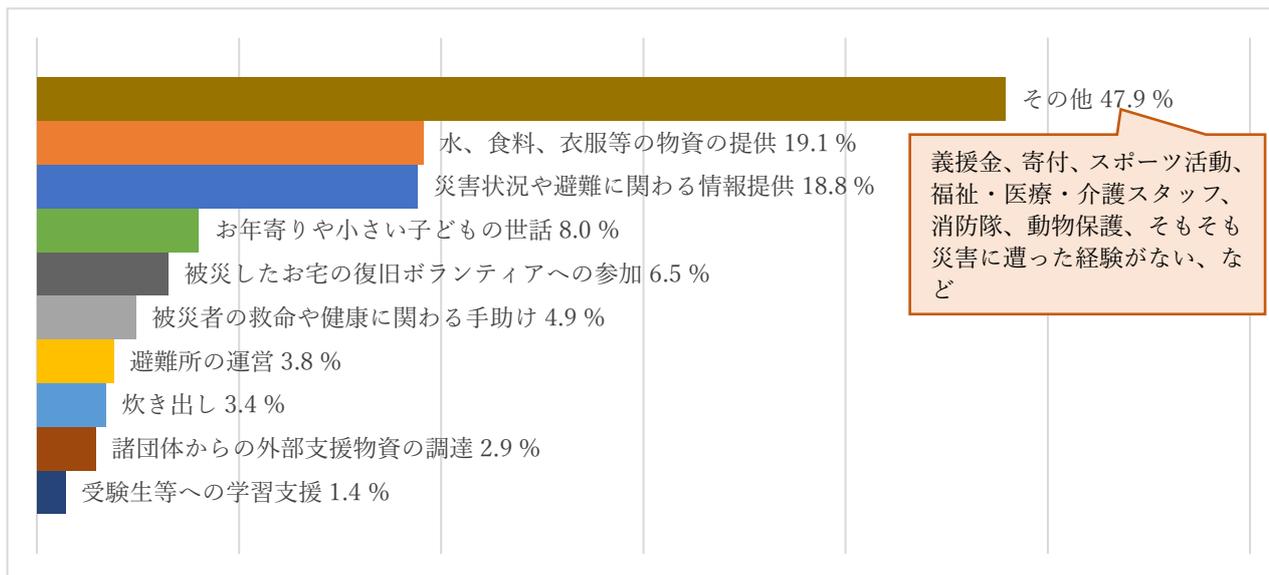


Q21. あなたご自身は、お住まいの地域や町全体の防災・減災に貢献していると思いますか。



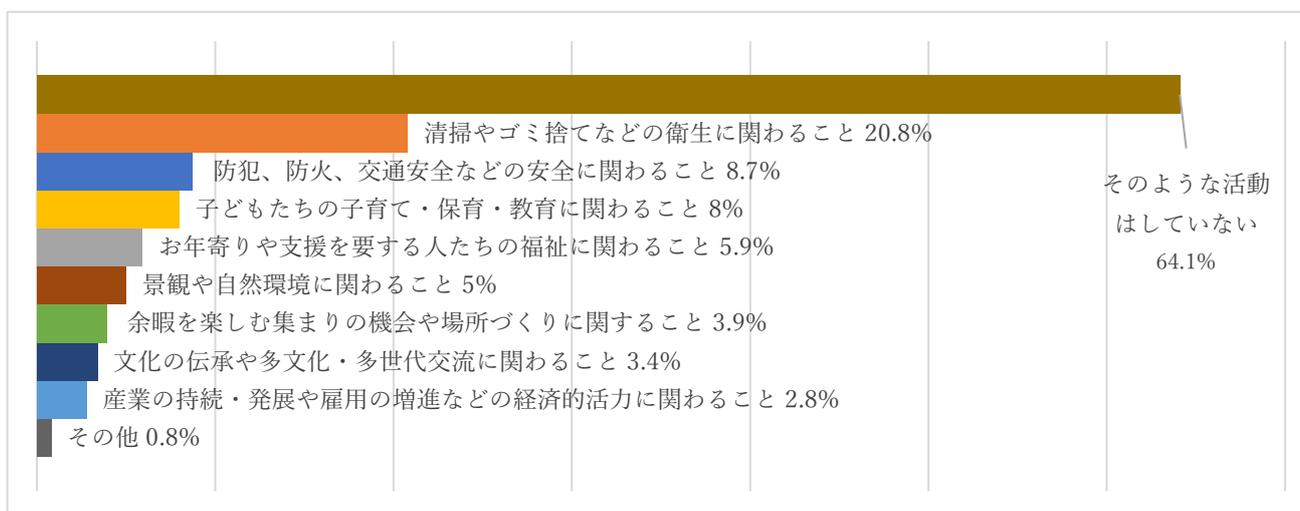
→ Q13で地域の防災活動等に参加していると回答した人は約14%であったことと照合すると、防災活動に参加する以外にも、地域の防災減災に貢献していると感じる要素があることがわかる。

Q22. あなたは自然災害の被災地で、ご家族以外の被災者の方々に以下のような手助けをしたことがありますか。

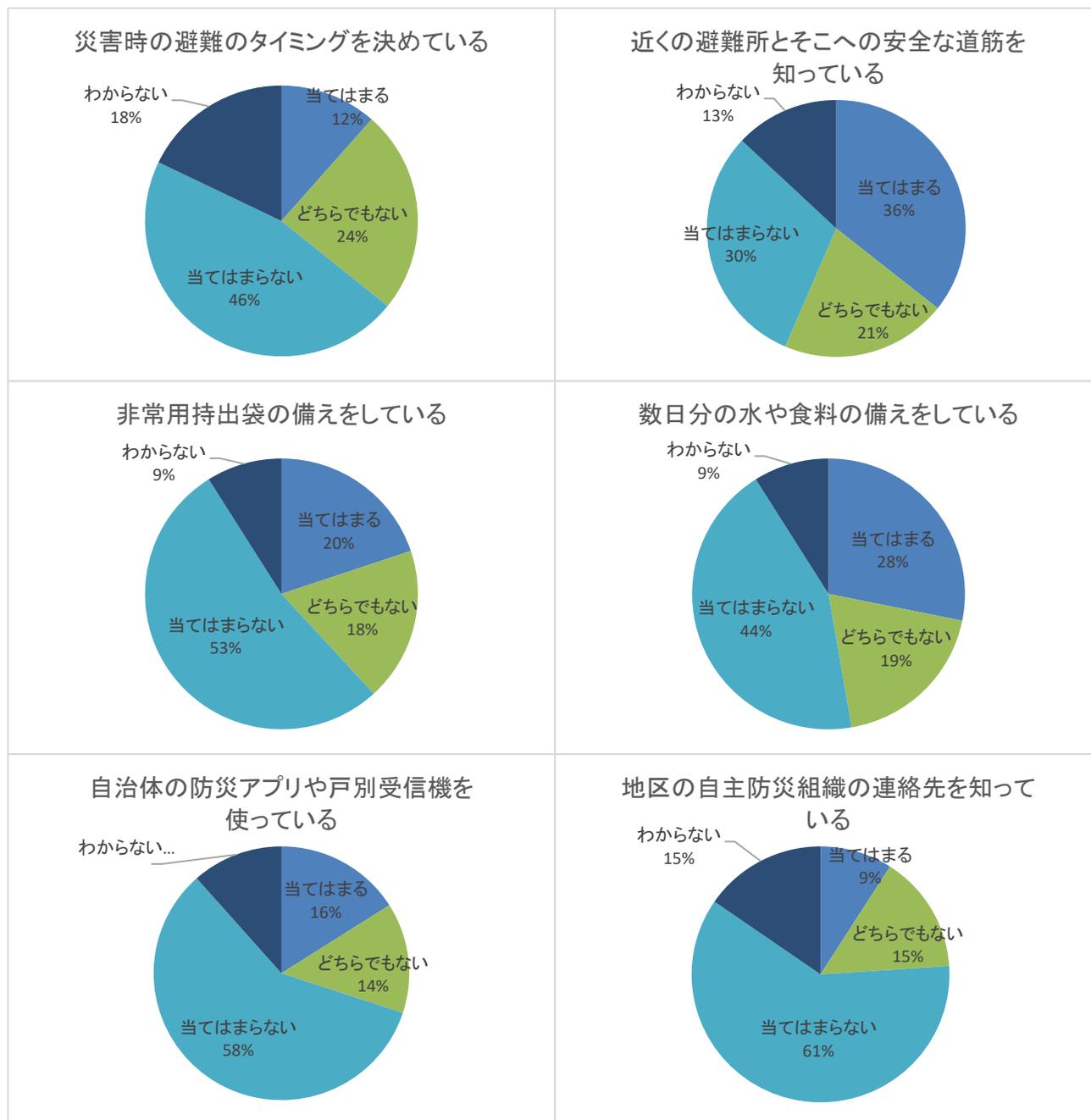


- ➔ Q13で「地域の防災活動等に参加している」と回答した人が14%であることと照合すると、日頃から防災活動等にほとんど参加していなくても、実際に災害が起こると家族以外にも手助けをする人が多くいることがわかる。
- ➔ 全回答者の約半数が災害現場で手助けをしたことがあると回答をしている。ここまでの質問回答から、全回答者の半数以上が「ほとんどの人は信頼できる」とは思えないと回答したことや、全回答者の半数近くが地域の役回り等がわずらわしく感じると回答したことがわかったが、実際に災害のような非常事態の現場では、手助けを厭わない人が多くいることがわかる。「非常時」には「通常時」とは異なる他者への態度がとれることがうかがえる。

Q23. あなたは、防災・減災以外で、お住まいの地域や町全体の快適で安心な暮らしに関わる活動をされていますか。下記のなかから該当するものをすべて教えてください。

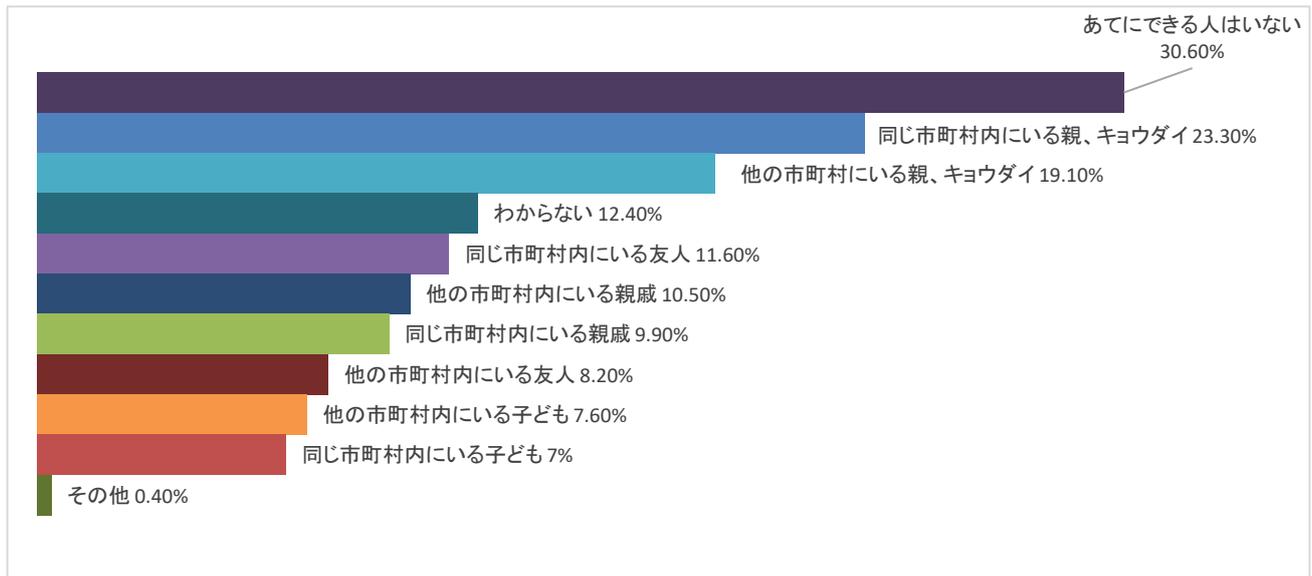


Q24. 防災に関する以下のことは、あなたに当てはまりますか。



- ➔ 避難のタイミングは決めていないものの、非難が決まった後の行動については事前に情報を収集できている人が一定数いることがわかる。
- ➔ 非常用持ち出し袋の備えはないが、水や食料の備えはしている人が一定数いることがわかる。
- ➔ 地域の防災活動等には約 40%の人が参加しているとの回答を得たが、その多くが防災組織の連絡先は知らないことがわかる。

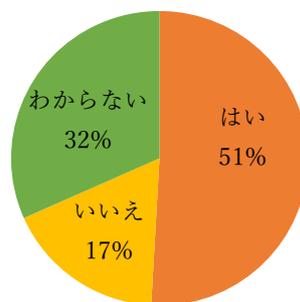
Q25. 大きな災害で被災したときに、避難先としての受け入れや復旧の手助け等をあてにできる方はいますか。あてはまるものすべて選択してください。あてにできる方がいない場合は「あてにできる人はいない」を選択してください。



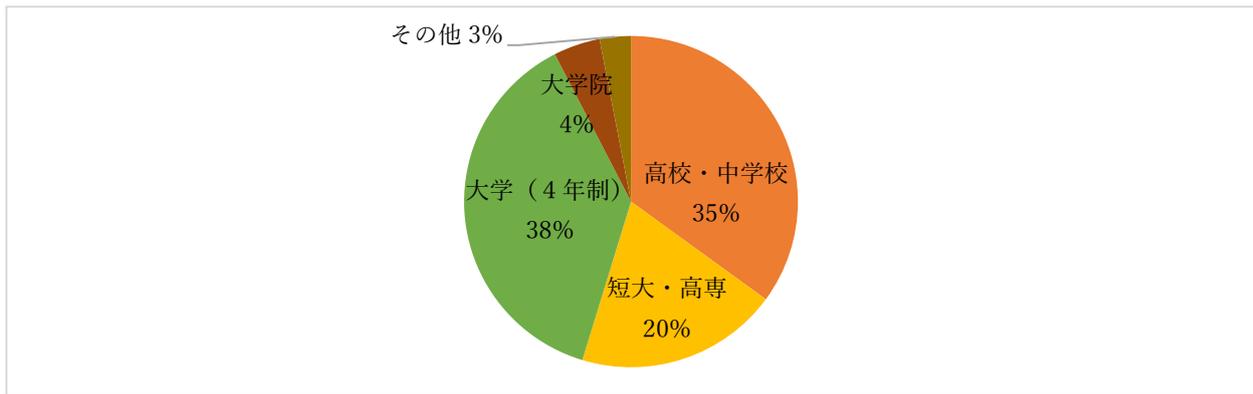
- 同じ市町村内、外の市町村どちらの場合も「親・キョウダイ」が最も多い。また、距離を問わず「子ども」よりも「親戚」を選んだ人の方が多い。
- 「あてにできる人はいない」が30%いる。

Q26. 仮の話ですが、もしあなたが以下の状況にあった場合、自分なら協力を申し出るとお考えですか。直観的でよいですから、できるだけ「はい」か「いいえ」でお答えください。

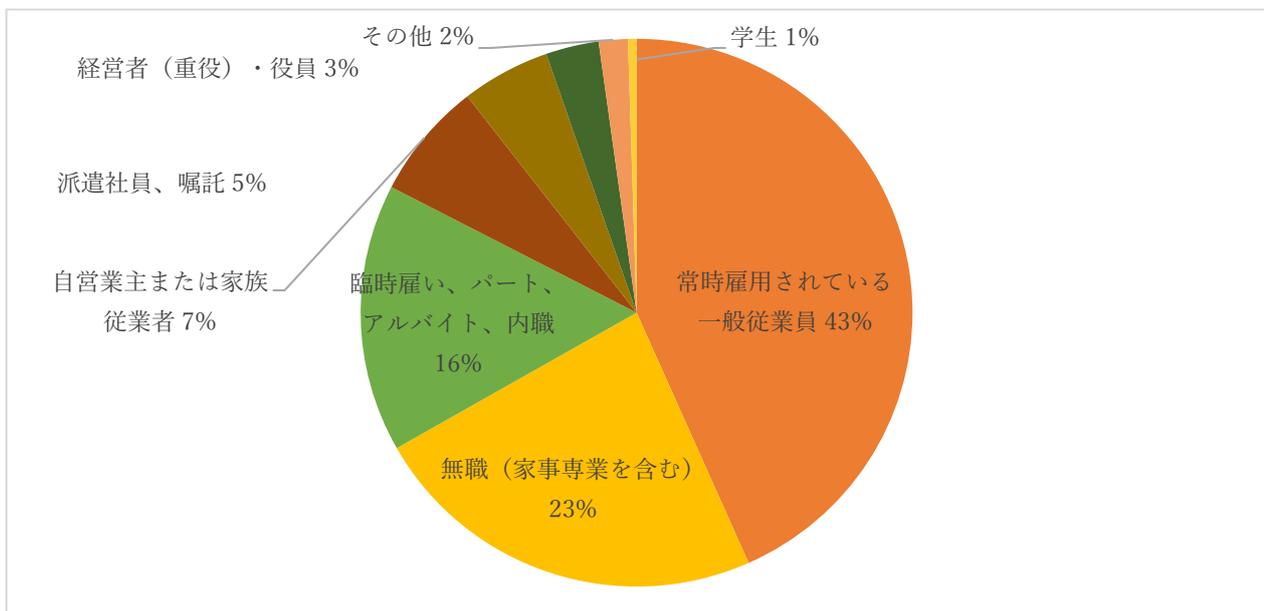
あなたは、大きな災害にあつて地域の避難所に避難した市民です。
 ・避難所は地域の役員さんたちが仕切っていますが、大変そうです。自分も仕事の経験を生かして力になれそうなのですが、日頃自治会に参加していないので、入っていきにくい雰囲気です。避難で疲れている様子の家族も気になります。
 ・あなたは、協力を申し出ますか。



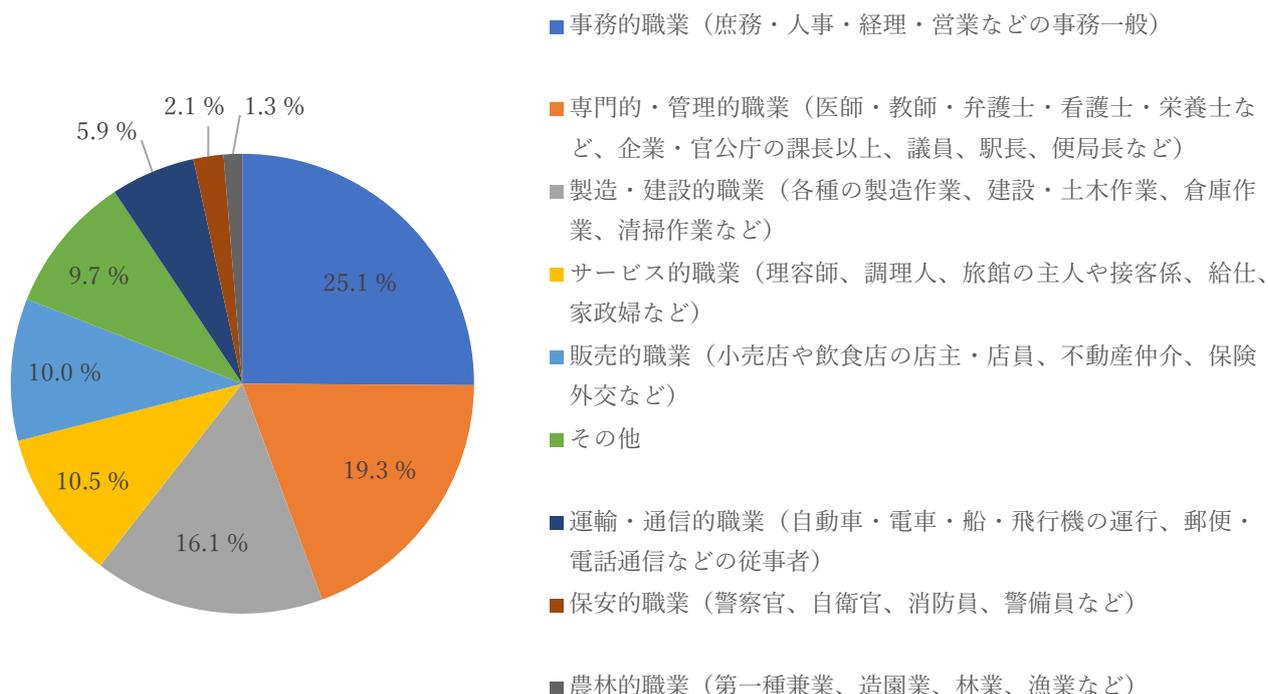
Q27. あなたが最後に出られた（中退を含む）、または現在就学中の学校をお教えてください。



Q28. あなたの現在の働き方は、以下のうちどれに当てはまりますか。



Q29. あなたは、お勤め先ではどのような仕事をされていますか。



Q30. あなたのお宅（あなたご自身、および、あなたが生計をともにする人）の年収（ボーナスを含む、税込み）をお教えてください。

